

# 豊かな自然を守りたい

## 神岡で長沼自然観察会

大仙市の道の駅かみおか向かいにある、長沼つり公園で7月30日、長沼自然観察会が開かれた。市内の親子連れ

4組を含む15人が参加し、長沼の豊かな自然を体験しながら地域の自然環境や生き物について理解を深めた。

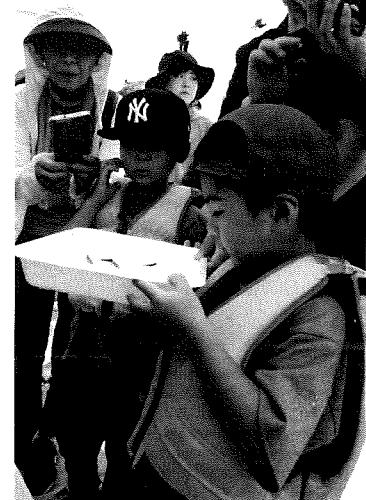
NPO法人秋田水生生物保存協会の杉山秀樹理事長や環境省希少野生動植物種保存推進員の青谷晃吉さんらが講師として参加。参加者はたも網等で魚や生き物を採取し、杉山さんと青谷さんの解説を聞きながら生き物の観察を行った。

この中で在来のものはハゼだけ。モツゴもタイリクバラタナゴも外来種で、タイリクバラタナゴは1945年頃に中国から日本に入ってきた。最初は利根川だけにいたが、いつの間にか秋田にも入ってきた。今捕れた魚で在来のハゼはわずか3匹。在来種を大切にしなければ生態系は大変なことになる」と警鐘を鳴らした。

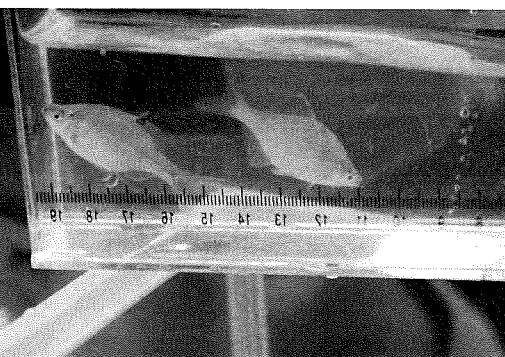
水生昆虫の観察では、青谷さんが才オミズスマシは4つあって、水面に落ちてきた生き物と水中にいる獲物の両方を捕る「子どもたちは目食のオオミズスマシはのぞき込んだ」。水生昆虫の観察は、青谷さんが才オミズスマシは4つあって、水面に輝かせて水槽の中を

が、豊かな水辺を守るためにしっかりとモニタリングすることが重要」と述べた。花館小学校2年の小嶋快さん(7)は「ジュズカケハゼとか色々な

魚が捕れて楽しかった。ヤゴやアメンボ、水生昆虫もたくさん捕れた。外来種と在来種について勉強になつた」と話した。



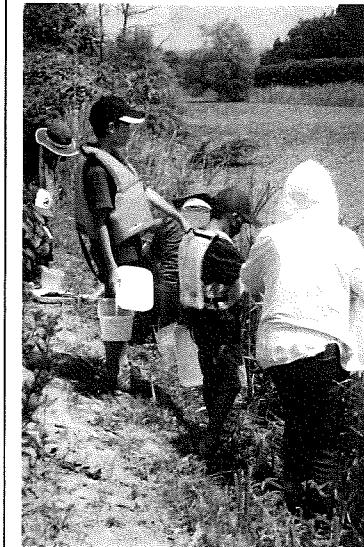
採取した魚を観察



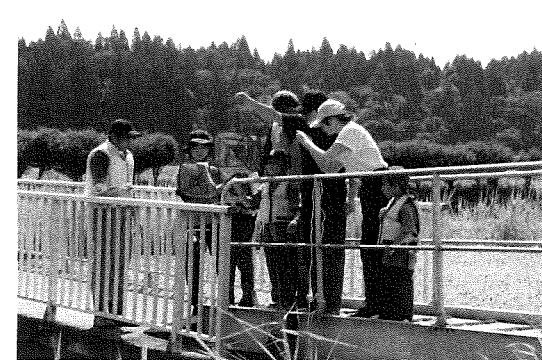
外来種のタイリクバラタナゴ



水生昆虫の解説



水生昆虫の捕獲に臨む参加者



網で魚を採取



長沼つり公園